

◆ リカレント教育

《小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの開講》

【実績】

- ・ 8月9日から9月29日にかけて、延べ21日間にわたり、小規模病院等ブラッシュアッププログラムを4科目26単元で実施した。単元を継続して受講できるように昨年度と同様の科目とし、昨年度の状況を踏まえた授業構成にした。
- ・ 受講生の総人数は34名であった。全履修者は5名で、昨年度から継続して全科目を履修した1名と合わせて今年度の履修証明書交付対象者は6名であった。

【成果】

- ・ 受講生の総数は34名と昨年度の56名より少なかったが、全科目履修者は6名で昨年度と同様であった。
- ・ 授業内容については、終了後のアンケート結果からも満足度が高かった。また、講義開始時間を遅らせたことで、通学の負担を多少軽減させることができた。
- ・ ブラッシュアッププログラムは今年度で2期目であるが、2年継続して受講する者もあり、研修する機会の少ない小規模病院の看護職にとって、当研修プログラムの存在の認知が図られてきていると実感される。

【実施上のポイント】

- ・ 講義の開始時間は遠方の受講者も受講しやすいような設定とする。
- ・ 双方向のICTを活用し、受講の機会が得やすいようにする。
- ・ 興味関心のある単元のみ履修を可とする。
- ・ 履修証明書を発行する基準を単年度のみでの受講だけでなく、複数年（2年間）に渡る受講でも可能とする。

《ブラッシュアッププログラム修了者を対象にしたフォローアップ研修会の実施》

【実績】

- ・ フォローアップ研修を6月から12月の間に8日間で実施した。案内を送付した6名全員から受講希望が得られたが、1名が勤務の調整がつかず5名の受講となった。
- ・ 内容は、「指導力スキルアップ研修」、「看護研究ステップアップ研修」、「地元医療連携ブラッシュアップ研修」とした。
- ・ 「指導力スキルアップ研修」では、「看護過程論」、「基礎看護方法論」の学部の講義・演習に参加、「看護研究ステップアップ研修」では看護研究計画書の作成・研究実施・まとめについて講義・演習を実施した。
- ・ 「地元医療連携ブラッシュアップ研修」では学部の「相互理解連携論」の講義・演習に参加し、連携を進める上で必要なスキル（ファシリテーション・コーチング等）について学習した。

【成果】

- ・ 昨年度のブラッシュアッププログラム修了生6名全員から受講希望があり、フォローアップ研修に対する期待があることを実感できた。
- ・ 看護過程論は、年代によって学生時代に履修していない受講生がおり、「今回の学びは新人教育や学生指導に活かせる内容であった」との感想が得られた。
- ・ 看護研究は、昨年度のブラッシュアッププログラムの学びを活かし、再度研究計画書を作成し、調査実施直前までの到達となった。研修生からは「研究について苦手意識があったが、この研修で指導が受けられたことで研究への意欲が増した」、「研究の実施・まとめに向けてもっと研修時間が欲しい」との感想や意見があった。
- ・ 相互理解連携論は、学生との演習を通してコミュニケーションスキルを強化する内容であった。研修生からも「繰り返し学び、演習を経験することで自身にコミュニケーション力が付いてきていると実感した」、「ファシリテーターの役割りの場面で活かせる内容だった」との感想が得られた。

【実施上のポイント】

- ・ 平日の開催となるので、受講生が受講しやすいように開始時間を遅めに設定とする。
- ・ 受講生が受講しやすいように、受講期間を集中させず間隔をあけての開講とする。
- ・ 学部学生の授業に参加し、実際に学生への指導を行ったり、ファシリテーターの役割りを担ってもらうようにする。
- ・ フォローアップ研修日以外にも看護研究が実施できるようにメールで質問を受けたり、参考文献の紹介等の支援を行う。